

不妊治療費用助成対象を拡大しました

不妊治療を受けた方の経済的負担を軽減するため、治療開始年齢が40歳から42歳までの方が保険適用外となる4回目以降の生殖補助医療を受ける場合の治療費用を助成対象として拡大しました。治療をお考えの方は、ぜひご相談ください。

【問い合わせ】保健センター（☎282-2797）



〈拡大の概要〉

対象者	治療開始年齢が40歳から42歳までの方
対象となる治療費	保険適用外(自己負担10割)となる4回目以降の以下の治療費 ▽一般不妊治療 ▽生殖補助医療 ▽先進医療
助成額	1回の治療につき上限10万円(最大2回)



石神城発掘奮闘記

ふるさと歴史

～歴史を再発見～

歴史と未来の交流館学芸員

中泉 雄太

私は4年前より、村北部に位置する石神城跡の発掘調査に取り組んでいます。この城は久慈川(旧流路)の要害機能と水運機能を利用した平山城として、佐竹氏との関連が深い石神小野崎氏の拠点となり、廃城から約400年を経た今もその堂々たる姿を見ることが出来ます。

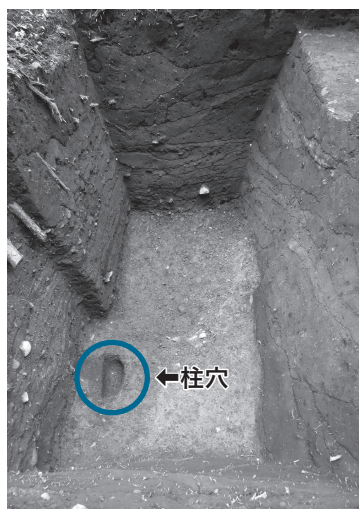
実は城の地下は多くの謎に満ちており、発掘調査で知られざる石神城の歴史をひも解くことが私の重大任務です。令和6・7年度調査では、Ⅰ・Ⅱ郭間をつないだ通路の解明に挑みました。城の中心部にはⅠ・Ⅲ郭の三つの曲輪(城内の平坦な区画)があり、各々が土塁と堀で区切られています。そのため、曲輪間を渡るためには橋などの通路が必要です。しかし、Ⅰ・Ⅱ郭間にはその痕跡が見当たらず、当時の人々がどのようにして渡ったのかが不明でした。

私たちは謎の通路が木橋であると想定して、令和7年度はその痕跡が残る可能性が高い堀底に狙いを定めて調査しました。木橋そのものは既に朽ちてしまったとしても、橋の柱を立てるために掘られた柱穴が地下に遺されている可能性があるからです。いざ掘り始めてみると、待っていたのは堀に堆積した大量の土との闘いでした。土は重機で押し固めたかのように硬く、掘る

たびに土の中の石が「カチッ！カチッ！」とスコップに当たり、なかなか思うように掘り進むことができませんでした。

ひと月が過ぎても堀底は一向に姿を現さず、発掘メンバーの多くが「柱穴発見は難しいかもしれない」と諦めかけた時でした。掘削面が礫層へと変わり、ついに堀底に到達しました。そして、ここで念願の柱穴を発見しました。木橋の存在を裏付ける重要な証拠です。

発掘調査はさまざまな可能性を考えて挑んだとしても狙い通りの成果を得ることが難しく、また掘れば掘るほど新たな疑問も生じます。それでも、決して諦めずに目の前の土と向き合った先には、大きな発見があるのだと実感しました。



【堀底発見の柱穴】